

播磨國
印南野

給へり、

みやぎの、つゆふきむすぶ風のをとに小萩がもとを思ひこそやれ

〔類聚名物考 地理十九〕印南野 いなみの 播磨國印南郡

印南野 いなみの川 いなむ島 印南浦

續日本紀 第二十六には、賀古郡印南野とあり、日本書紀又萬葉集には稻日とも書り、又美作久

米さら山に讀合せし歌有れば美作にも同名有るか、

〔續日本紀二十六〕天平神護元年五月庚戌、播磨守從四位上日下部宿禰子麻呂等言、部下賀古郡人

外從七位下馬養造人上款云、人上先祖吉備都彥之苗裔、上道臣息長、借鎌於難波高津朝廷、家居播

磨國賀古郡印南野焉、其六世之孫牟射志以能養馬、上宮太子被任馬司、因斯庚午年造籍之日、誤編

馬養造、伏願取居地之名、賜印南野臣之姓、國司覆審所申有實許之、

〔太平記四〕先帝遷幸事

湊川ヲ過サセ給時、福原ノ京ヲ被御覽テ、○中 印南野ヲ末ニ御覽ジテ、須磨浦ヲ過サセ給ヘバ、○下

〔萬葉集三〕稻日野ノ毛去過勝爾思有者、心戀敷、可古能島所見、一云潮見

〔萬葉集七〕羈旅作

南南野者往過奴良之、天傳、日笠浦波立見、

〔藻鹽草三〕野

野もり

〔倭訓栞中編十八〕のもり 野を守ル人をいふ

〔萬葉集一〕天皇遊獵蒲生野時、額田王作歌

茜草指武良前野、逝標野行、野守者不見哉、君之袖布流、

野守